兵庫教育大学
連合学校教育学研究科

教育実践学
コンピテンシー・チェック

学生が、教育実践学に関する研究を行い、教育（指導）することのできる研究者として資質・能力を身に付けたうえで修了できるよう本学の組織的かつ体系的な教育・研究指導を通じて修得すべき教育実践学コンピテンシーの修得状況及び自身の研究の進捗状況等を確認することを目的とする。

兵庫教育大学　上越教育大学　岐阜大学
滋賀大学　岡山大学　鳴門教育大学

教育実践学コンピテンシー

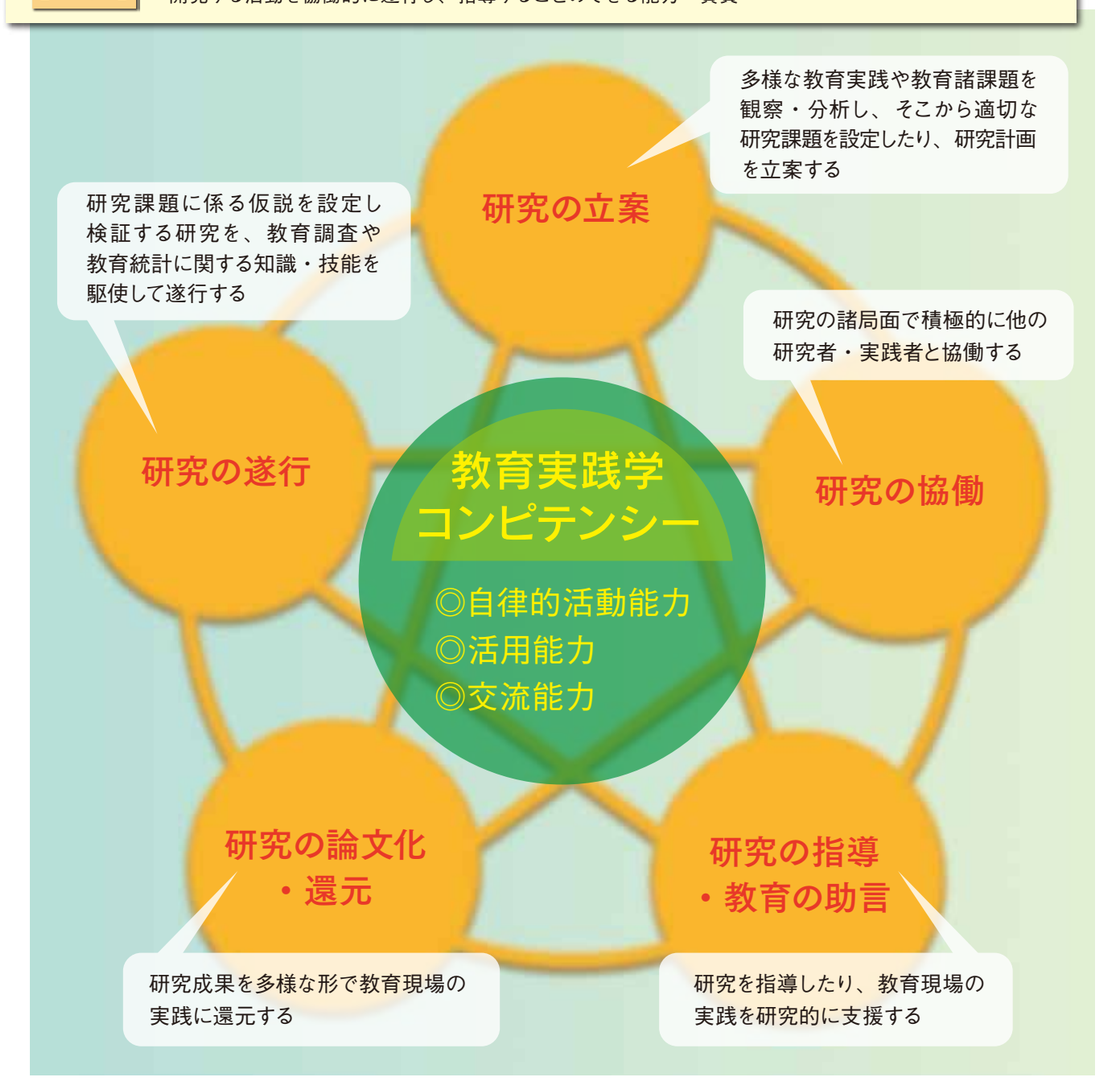
基本的な考え方

●本学が目指す教育実践コンピテンシーとは、教育実践学に関する研究を行い、教育（指導）することのできるコンピテンシーを指します。
●教育実践学とは、学校教育に係る実践を対象に理論と実践の融合を目指す教育学であり、本研究科は次の２領域３専攻で構成されます。

領　域	専　攻
1 学校教育実践	①学校教育実践学専攻
	②先端課題実践開発専攻
2 教科教育実践	③教科教育実践学専攻

本学で培われる教育実践学コンピテンシー

【定義】 教育実践に関する研究課題を見出し、仮説・検証を通して理論の構築を図ると共に新たな実践を創造・開発する活動を協働的に遂行し、指導することのできる能力・資質



記入例

（案）

記入例

教育実践学コンピテンシー・チェックシート

所属講座	自然系教育連合講座
学籍番号	D22****
氏　名	兵庫 太郎

［研究題目］

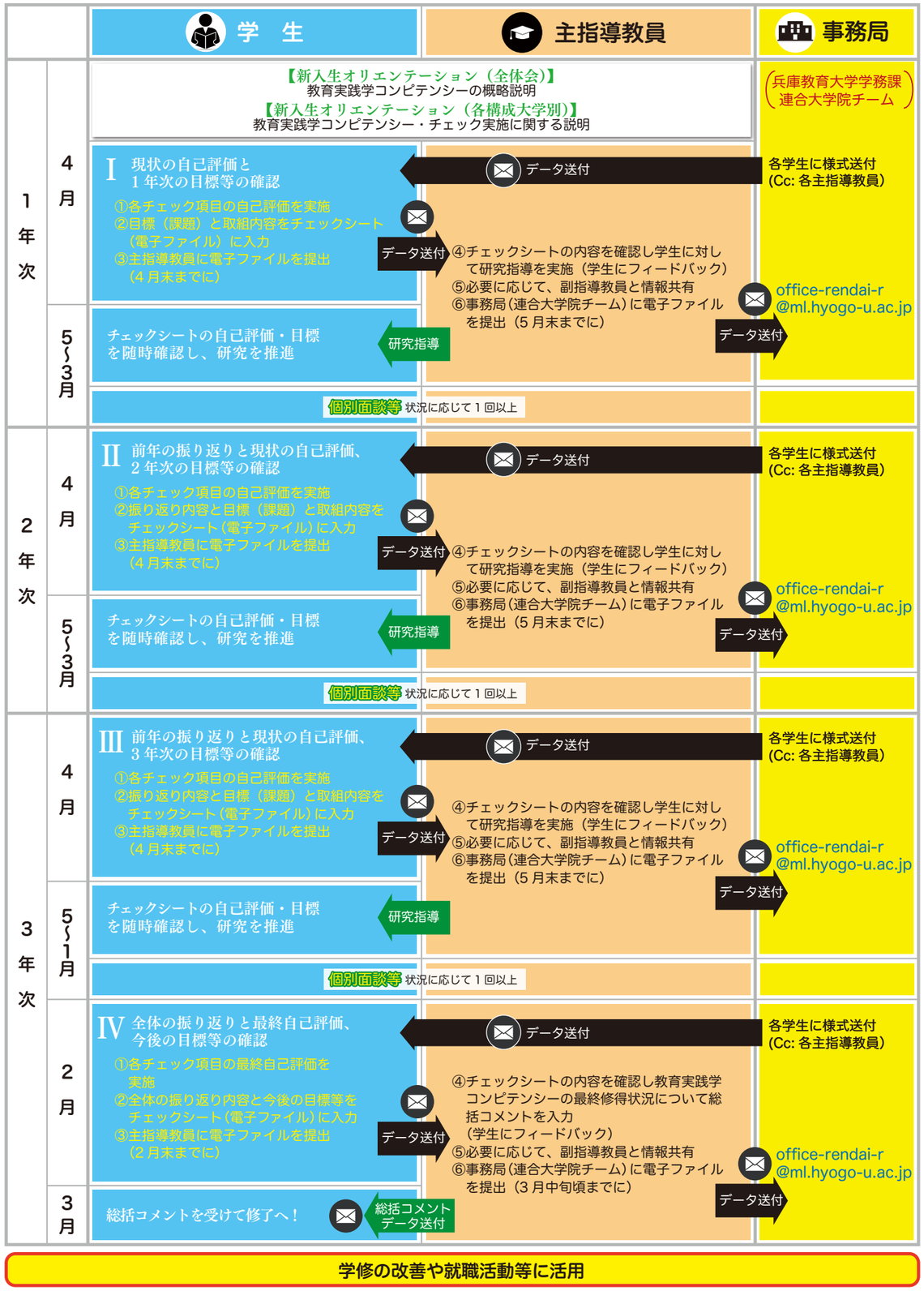
証明の機能論を視座とした証明指導の教材開発

できていない　：1　少し達成　：2
予定どおり達成：3　予定以上に達成：4

チェック項目	1年次当初	2年次当初	3年次当初	修了時（退学時）
1)［研究の立案］ 多様な教育実践や教育諸課題をもとに、適切な研究課題を自律的に設定し、研究計画を立案することができる。	2	2	3	4
2)［研究の遂行］ 研究課題に対して、適切な先行研究成果を収集し、仮説を設定・検証を行う等、研究を遂行するための知識・技能・方法論を有している。	2	2	3	4
3)［研究の論文化・還元］ 研究結果を言語化し体系的に成果としてまとめあげる能力、また、研究成果を教育実践の場で還元していくための説明力を有している。	2	2	2	3
4)［研究の協働］ 研究の諸局面で積極的に他の研究者・実践者と協働することができる。	1	1	2	3
5)［研究指導者・教育助言者としての能力］ 研究を指導したり、教育現場の実践を研究的に支援したりすることができる。	1	1	2	2

1)各年次当初に、学生自ら各チェック項目について、自己評価を行うとともに、各年次等の別紙に具体的な目標（課題）及び取組内容、振り返り（２年次以降）を記載し、自身の修学状況等の確認を行う。
2)各年次当初に、主指導教員は本チェックシートを回収し、学生の修学状況等の確認を行う。
3)関係教員(副指導教員等)と本状況について情報共有を行う。
4)修学状況等に応じて指導計画等の変更が生じる場合は、主指導教員等に相談の上、変更し当該学生と共有するとともに、本紙を返却する。

教育実践学コンピテンシー・チェックフロー



お問い合わせ先　国立大学法人兵庫教育大学　学務課連合大学院担当
〒673-1494　兵庫県加東市下久米 942-1　TEL 0795-44-2068　FAX 0795-44-2269
E-mail office-rendai-r@ml.hyogo-u.ac.jp

記入例
1年次

記入例
別紙（1年次）

（1年次当初）

所属講座	自然系教育連合講座
学籍番号	D22****
氏　名	兵庫 太郎

［研究題目］

証明の機能論を視座とした証明指導の教材開発

●各項目について、今年度の具体的な目標（課題）と取組内容を記載してください。

1）［研究の立案］

証明の機能論に関する先行研究を多く読み進め，入学時に設定した研究題目について，研究計画を具体化していきたい．特に，証明指導の教材開発として，何を目的とするのか，研究の目指す到達点をより明確化していきたい．

2）［研究の遂行］

先行研究の収集については，これまで和文論文を中心に読んできたので，欧米論文も読み進めていきたい．
また，証明指導の教材開発については，その開発手法をどうするか，また，開発後の実践の方法・分析・評価の方法を考案する必要がある．

3）［研究の論文化・還元］

修士論文をもとにした研究成果を，まずは論文としてまとめ，学会に投稿する．

4）［研究の協働］

まだ，共同研究の経験がほとんどない．まずは学会参加の機会などに，自分の研究領域と関わる研究者に積極的に声をかけるなど，ネットワークを広げていきたい．

5）［研究指導者・教育助言者としての能力］

まだ，研究者としては駆け出しのため，指導者や助言者としての経験も能力も有していないので，先達にあたる研究者からの学会発表に対するコメントや，主指導教員の先生からの指導を参考に，自分が大学教員となった際の場面をイメージしていきたい．

記入例
2年次

記入例
別紙（2年次）

（2年次当初）

所属講座	自然系教育連合講座
学籍番号	D22****
氏　名	兵庫 太郎

［研究題目］

証明の機能論を視座とした証明指導の教材開発

●各項目について、前年度の振り返りと今年度の具体的な目標（課題）、取組内容を記載してください。

1）［研究の立案］

主指導教員の先生の指導のもと，研究の目指す到達点が明らかとなってきた．
ただ，そのための開発手法については，まだ模索中である．今年度は，設定した研究のゴールに向けて，どのように開発の方法論を設定するかを考えていきたい．
そのために，年間の研究計画をスケジュール感をもって考えていく必要があると感じる．

2）［研究の遂行］

１）でも述べたように，研究の目指すものが明確となったが，開発手法の考察が今後の課題となる．
教科教育学だけでなく，教科内容学としての数学の内容についても，今年度は学習し，教科教育と教科専門の架橋の仕方について学んでいきたい．

3）［研究の論文化・還元］

昨年度は，論文を投稿したが，修正再審査となった．
その中で，学術論文としてまとめる経験と，査読者のコメントへの対応の仕方について学ぶことができたと思う．
また，本研究の目指す到達点について，証明の機能論を視座とする証明指導の評価枠組みを設定することができた．この内容についても新たに論文投稿を準備する．

4）［研究の協働］

学会等を通して，関連する研究者の方々と交流することができた．また，主指導教員の先生が参画する科研費の研究に研究協力者として入れてもらうこととなった．
今年度は，その科研費の研究グループでの研究打ち合わせに参加する予定である．研究者同士の議論に参加し，その手法を学びたいと思う．

5）［研究指導者・教育助言者としての能力］

まだまだ，研究指導者としての能力が身に付いたとは言えないが，主指導教員の先生の授業にTAとして参加し，大学教育での授業の方法について少し知見が増えたと思う．
今年度は，プレFDの制度を利用して，主指導教員の先生の授業を見学予定である．

記入例
3 年次

記入例
別紙（3年次）

（3年次当初）

所属講座	自然系教育連合講座
学籍番号	D22****
氏　名	兵庫 太郎

［研究題目］

証明の機能論を視座とした証明指導の教材開発

●各項目について、前年度の振り返りと今年度の具体的な目標（課題）、取組内容を記載してください。

1）［研究の立案］

この２年間で研究が具体化されていくプロセスを感じることができた．
今年度は，自分自身で新たな研究計画を立て，科研費の若手研究の公募に応募することを検討したい．

2）［研究の遂行］

これまでの２年間で，先行研究に関する知見がかなり広がり，関連する研究についてはかなり全体像が見えてきたように思う．
また，入学当初に設定した研究課題に対する研究に着地点が見えてきて，ひとつの研究サイクルを経験できたように感じる．まずは，今年度はこの成果を学位論文としてまとめることがテーマとなる．

3）［研究の論文化・還元］

昨年度も，投稿論文は修正再審査となったが，最終的には２本の論文が採択された．
今年度は，これまでの研究論文を基に，学位論文としてひとつの体系化された研究成果にまとめることが課題である．

4）［研究の協働］

昨年度は，科研費による研究プロジェクトに参画し，研究者同士の協働と話し合いの中で，研究が進む様子を目のあたりにすることができた．その際，ICT機器の活用，クラウドサービスの活用などを用いて，遠隔地や海外どうしでも研究を進める方法やコツを学ぶことができた．
今年度も，引き続き研究分担者として，この研究プロジェクトに参画する．

5）［研究指導者・教育助言者としての能力］

昨年度は，プレFDの制度を利用して大学での授業を見学し，その後，この授業のポイントなどを教わった．
また，今年度から同研究室の後輩にあたる院生もできたので，後輩からの相談にも積極的に対応していきたい．

記入例
修了・退学時

記入例
別紙（修了・退学時）

（修了・退学時）

所属講座	自然系教育連合講座
学籍番号	D22****
氏　名	兵庫 太郎

［研究題目］

証明の機能論を視座とした証明指導の教材開発

●各項目について、これまでの振り返りと今後の目標を記載してください。

1）［研究の立案］

博士課程を通して，設定した研究課題から，ひとつの研究として完結させるまでの経験をすることができた．特に，長期にわたる研究で，どの段階でどこまでを進めていくのか，という計画の重要性を感じることができた．

2）［研究の遂行］

１）でも述べたが，ひとつの研究として完結させることができた経験は，研究の方法論を学ぶ最高の機会となったと思う．引き続き，学んだスキルを用いて新たな研究を進めていきたい．

3）［研究の論文化・還元］

これまで投稿した論文は，いずれもすんなりと受理されたわけではなかったが，逆に投稿時に注意すべき点，査読への対応など多くのことを学ぶことが出来た．また，研究者の講演会などを聴く機会もあり，研究を現場に還元する講演などに触れる機会もあった．こうした経験をもとに，自分自身の研究もまた，実践へと還元していきたい．

4）［研究の協働］

主指導教員の先生に誘われて研究プロジェクトに入れていただいた経験は大きかった．今後は，自分自身も近しい研究者とネットワークを作りながら，できれば共同研究プロジェクトに参画していきたい．

5）［研究指導者・教育助言者としての能力］

来年度から，大学での職につくこととなった．まだ，未熟ではあるものの，次の世代の教育者を育成する立場となった以上，博士課程での経験を活かして，卒業研究や大学院での研究を指導していきたい．

●主指導教員コメント欄